

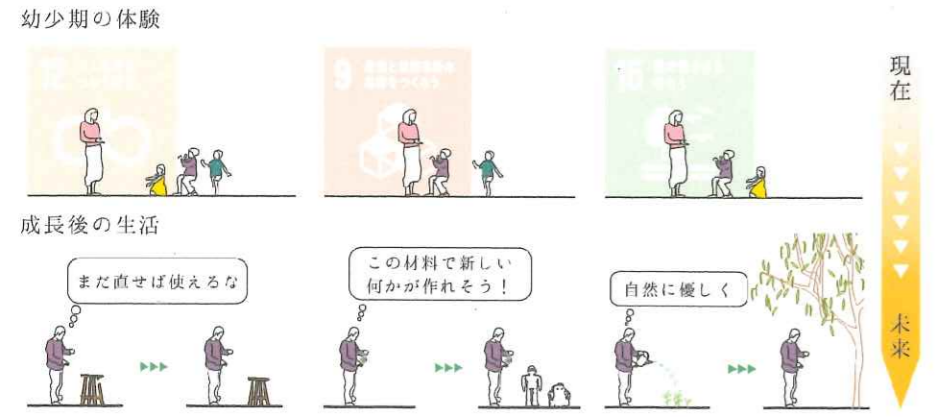
# てがた - 大地に触れるこども園 -

## 01. サーキュラーエコノミーとこれからの幼児教育

テクノロジーが発展する一方で自然環境の問題にも関心を持たなければならない現代の社会の幼児教育として、モノを作る、消費することに対する感性を育て、自然環境のコトを身近なモノとして感じることができる【サーキュラーエコノミー × 幼児教育】のこども園を提案する。



限りある天然資源の効率的な使用や環境問題、今まで無価値だったところに価値を生み、物を捨てるのではなく、どうするか考えさせるような学びを3歳児頃から徐々に園児の活動として取り入れることで、**世界を大切にする人間性を育む。**



## 02. 土を使いこなす学び舎 - 建設残土を利用した学びと校舎 -

**【建設残土を利用したこども園】**  
開発に伴って発生する建設残土を【サーキュラーエコノミー × 幼児教育】に取り入れ、自然環境に優しい校舎で、園児が安全に遊び・学ぶ過程の中で自然と触れ合うことができる資源として利用する。

### 土を使った校舎

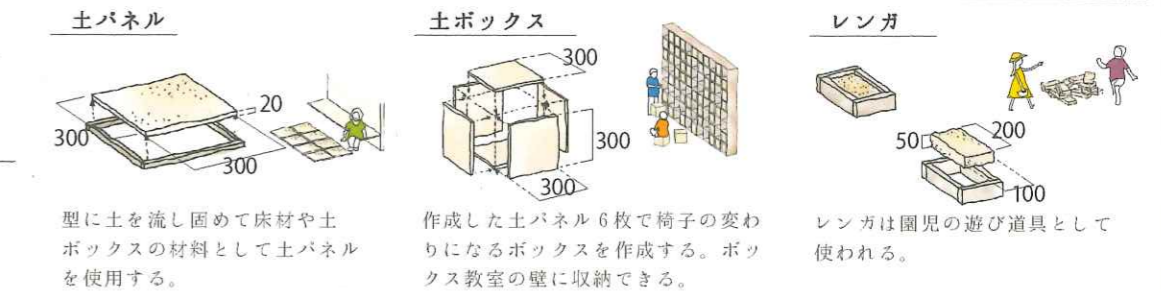


**土による知育**  
・各園児の遊びのプログラム

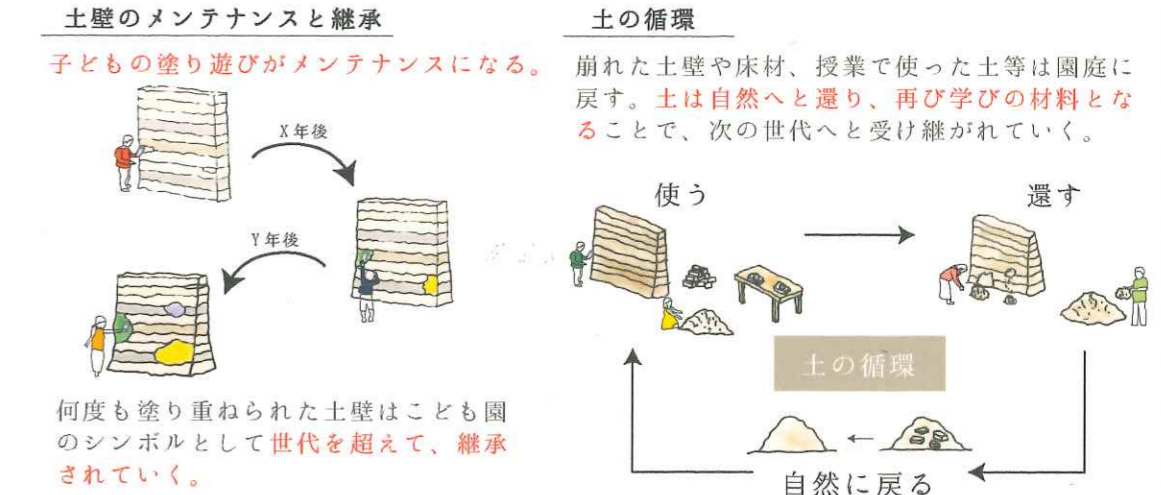
- 0歳 食事、睡眠
- 1歳 + 体を動かす、指先遊び
- 2歳 + 絵描き
- 3歳 + 制作（粘土遊び）
- 4歳 + 絵本読み聞かせ
- 5歳 + 集団遊び

土は子どもたちにとって簡易的で自由度の高い遊びの材料となる。子どもは土を変化させたり、それに色を加え、モノを作り上げて遊ぶ中で想像力、創造力、物事への関心を養っていく。

### 【こども園を支える土のツール】



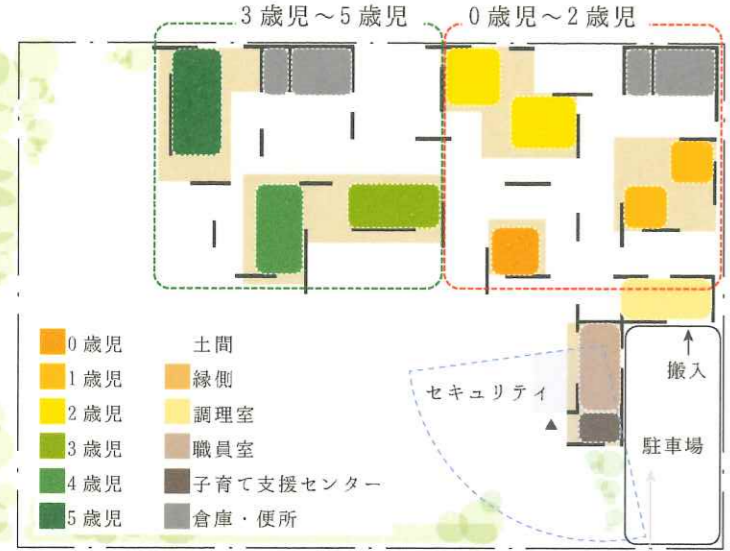
### 【土の継承と循環 - 世代間で受け継ぐ -】





### 03. 配置計画

大きな配置計画としては、道路側に職員室、調理室を設けてセキュリティと搬入経路を確保し、教室は北側に0歳児～2歳児と3歳児～5歳児に分けられる配置とした。



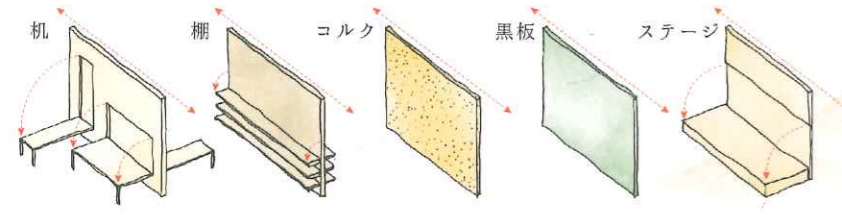
### 04. 室の解体

それぞれの教室を壁4面へ分解しずらすことで内外が曖昧な室を生み出す。さらに、それぞれの壁に機能を付与することで様々なプログラムが展開可能になる。

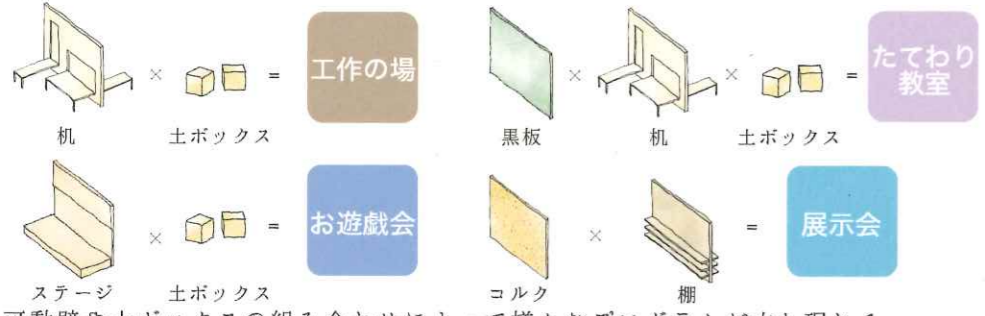


### 05. 可動壁による学びの誘発

可動壁に様々な機能を持たせ、回転・水平移動させることで園児たち自ら空間を変容させながら、様々な学びを獲得する。



#### 【可動壁の組み合わせによるプログラム】



可動壁や土ボックスの組み合わせによって様々なプログラムが立ち現れる。

